

ぬまづ憲法9条の会

190号
12月1日発行
事務局
神田健夫
055-921-7755

日本 東アジアの平和に「9条守れ」を今こそ

ず、9条破壊の加速化に手をつけている。

九条の会は11月21日に声明「総選挙後の改憲問題の新たな局面を迎えて」を発表した。その概略を紹介しよう。

新たな局面

改憲勢力は、自公、維新と合わせ、衆院の3分の2を越し、改憲問題は新たな局面を迎えた。

まず、9条破壊

岸田政権は、「国家安全保障戦略」「防衛計画大綱」を来年末までに改定し、中国を念頭においた敵基地攻撃能力の保有、日米共同演習の強化、辺野古基地建設の強行を目指している。ま

同時に、明文改憲

同時に、岸田自民党は、憲法9条の明文改憲にも踏み込むべく、臨時国会における憲法審査会での改憲案討議入りを狙っている。

維新の会の松井代表の「来年参院選と同日に改憲国民投票を」という発言や、国民民主党との憲法審査会毎週開催合意は、自民党の明文改憲を応援するものだ。

日米軍事同盟の強化 改憲の途は平和を遠ざける

しかし、日米軍事同盟を強めて改憲していく途は、米中の軍事対決を激化させ、日本と東北アジアの平和の

実現を遠ざける。明文改憲、9条破壊を阻止しなければならぬ。

草の根からの運動は

九条の会をはじめとする市民の草の根からの運動は、自民党などの改憲の企図を阻み続けてきた。

とりわけ、安倍政権の下、衆参両院で改憲勢力が3分の2超を占めて以降も、憲法審査会での改憲案審議を行わず、19年参院選では改憲勢力の3分の2を打ち破って安倍改憲を挫折に追い込んだ。

市民と野党の共闘こそ

来年の参院選に向けた新たな改憲の動きに待ったをかけるのも、市民と野党の共闘の力以外にはありえない。

市民の皆さんが、明文改憲と9条破壊の阻止のため、決意を新たに立ち上がることを訴える。

改憲実現本部と改称し 日本会議が中心となって

自民党は先の衆院選後、憲法改正推進本部を憲法改正実現本部へ改称し、部長に古屋圭司氏を、事務総長には衆院憲法審査会の与党筆頭幹事を務める新藤義孝氏を充てた。両氏は、日本会議国会議員懇談会の会長、副会長である。

改憲をおおる日本維新の会、馬場伸幸前幹事長・新代表は懇談会副会長、遠藤敬国対委員長は懇談会事務局長である。

改憲右翼団体・日本会議勢力が中心となって改憲実現のシフトを組んでいる。維新の馬場、遠藤氏が国民民主党の幹事長（榛葉賀津也氏）・国対委員長と会

談し、憲法論議の活性化で連携することで合意した。国民民主党も改憲の一翼を担うこととなった。

維新・松井代表の妄言

松井代表のデマ「来年の参院選の同日に改憲国民投票を」に、「大変だ」と危機感を持った方も少なくないだろう。

だが、来年の同日投票はほとんどあり得ない。

「べからず法」の公選法と原則「運動自由」の国民投票、この二つの投票法の同時並行実施は不可能だということだ。

まして、私たちのたたかがある下で、発議後60日以内の国民投票の規定から、来年の4月中に改憲発議を国会ができるだろうか。

小欄子は「心配ない」「危機感をもたなくていい」というのではない。松井氏などに煽られず、しっかりと改憲策動に反撃する運動を強めようと呼びかけたい。

今回の九条の会声明をぜひお読みください。

(メールマガジン11月25日編集後記)

天声人語が・

11月13日の朝日新聞「天声人語」は「衆院選でお灸をすえられたのは、与党ではなく、共闘した野党だったかもしれない」と書き出した。これには驚いた。

11月3日国会議事堂前の「憲法大行動」でスピーチした、高田健さん（総がかり行動共同代表）の意見に耳を傾けてみよう。

野党共闘が間違い？

《野党共闘が間違いだったという攻撃がかけられている。野党共闘の質についての総括は必要であろうが、ばらばらにたたかっていたら、62の小選挙区の勝利すらなかっただろう。

（平和と命と人権を守る、つまり憲法を活かしまるためには野党共闘で）一本化を進め、野党と与党の対決構図をつくりだす以外にはない。全国各地で運動の基盤を一層広げたたかっぺいこう》

デニー知事 辺野古基地

設計変更を不承認

デニー知事は、沖縄防衛局が申請していた辺野古新基地の設計変更を1年半にわたって審査してきた結果、不承認とすることを決定し、工事の全中止を求めた。

マヨネーズ並みの軟弱地盤が最新90日に達するB27地点を念頭に、設計のために必要な調査が行われておらず、地盤の安定性が十分検討されていないなどを不承認の理由としてあげている。

また、ジュゴンに与える影響について工事に伴う水中音の調査が行われていないことも指摘している。

改良工事に政府の試算でも12年以上の年月がかかる。新基地建設は計画そのものが破綻している。

来年1月の名護市長選、9月の県知事選をみすえ、辺野古新基地をめぐる戦い

は重大局面に入った。

琉球弧とよばれる島々

九州、奄美から与那国に至るまで琉球弧と呼ばれる島々が今、ミサイル配備で要塞化されている。また、アメリカは台湾、琉球弧の島々での地域限定戦争を想定し、中国封じ込め作戦の軍事訓練を、日本、ドイツ、イギリス、フランス、カナダなどと大々的に行っている。

石垣島、宮古島などの島民のたたかいかも粘り強く続けられている。

CO2で連続化石賞

岸田首相は英国グラスゴーに0泊2日で 駆け付け、アンモニアを混ぜてもCO2が減るわけでもなく、CO2を地中に埋める技術は確立されてもいない「ゼロミッション」発言で、またまた「化石賞」を贈られた。

気候変動問題を扱ったN

HKスペシャル「グレートリセット〜脱炭素社会 最新線を追う」（11月7日）では石油への依存、電気自動車、風力発電などは扱われたが、石炭を使用する火力の問題にはほとんど触れなかったという。また、日本のメディアは「子どもだまし」のような岸田発言を批判しなかった。

入管幹部を刑事告訴

スリランカ人のウイシュマさんの遺族が入国管理局幹部を殺人容疑（未必の故意）で刑事告訴した。

憲法9条を 変えさせない

- 集会・スタンディング
- 12月12日（日）
- 沼津中央公園 雨天中止
- 13時30分 集会
- 14時スタンディング
- 14時30分 浦島浩司さんの歌声ひろば30分

駅前スタンディング

2月11日、18日（土）
12時30分〜14時15分

沼津駅南口 雨天中止
主催 戦争させない憲法壊すな 沼津の会

ぬまづ憲法9条の会
「16周年の集い」

出席者は83名（チケットは定員の100名完売）。
神田安積弁護士が、女性と憲法

「届け！弁護士のカッコロナ禍の女性の生存権」、
「いつになれば夫婦別姓が選べるの？ 最高裁判決を読んでみよう」を分かりやすく講演された。

「とても、話し方が聞き取りやすく、分かりやすい話でした。世の中に貧しい人達が救われる制度があるのに、報われない、救われない人達がいるという話。夫婦別姓の問題がよく分かりました」などの感想・意見が寄せられた。